

## 日記

昭和十三年三月一日（晴れて暖か）  
房子。未だ喀血で微熱。

三月二日（晴れて暖か、後曇）

改造社、絲瓜。昨夜から又大喀血。終日喀血。

三月三日（曇つて時々小雨）

讀書新聞、武藏野探勝會、日本俳人協會。

夜玉藻問答。未だ喀血で身體疲勞。

三月四日（晴）

俳句研究、あをきり速達三回。二水よりイチゴ。朝梅信を俳句研究へ。未だ喀血で頭痛猛烈に。

三月五日（晴れて暖か）

東子房、俳句研究編輯部、無門、ホトトギス速達。喀血頭痛猛烈、終日斷食。

三月六日（晴れて暖かさ猛烈）

あをきり、阿蘇、眞理、ホトトギス發行所、玉藻社、國平。頭痛吐氣小康。夜パン。添削句評。

終夜不眠。

三月七日（暖かい春雨）

麻耶。春雨の中に、門の梅が全く一輪丈初めて咲いた。喀血は血痰になつて、頭痛も小康。久し振で落着いた。病中一週間程、石屋が垣根の石垣を完成終了してゐた。

三月八日（曇つて寒くて時々小雪）

松竹。未だ時々血痰。句稿整理。

三月九日（雪曇で猛烈に寒い）

石屋の人が来て、奥の院を開墾して、畑が一枚出來た。夜花と雜詠とを清書。

三月十日（朝初めて大寒）

山彦、房子、ホームグラフ。夜雜詠豫選。

三月十一日（薄日で寒い）

牡丹會、かりたご。午後頭刈る。夜雜詠豫選終了。

三月十二日（朝曇後晴）

讀書新聞、寶雲舎、内外書籍。夜偉人の最後。

三月十三日（雨で寒くて時々小雪）

ホトトギス發行所、國平。晝添削句評。夜筆記整理。

三月十四日（曇で寒氣猛烈）

新更、パイロット。本門寺山ポストへ。